



は吾人の與せざる所。

若槻首相、現内閣の使命未終、民心不離吾と豪語す、民心不離吾の言必ずしも當らず、併しながら此言や、政府與黨に拮抗せむとする在野兩黨に目新らしき政策なく、陰謀術數を弄して政府を乗取らむとする野心、徒らに勃々として何等民心を得ざるの現状を評するものとせば至言である。

床次總裁柄にもなく聲を大にして、

朴烈事件を捉へて政策以上に超越した國家皇室に關する重大問題なりとし、國民と共に其の非違を糺彈する要ありと言ふ、夫れ程重大事であるか國民が夫れ程に熱狂してゐるかは疑問である、松島事件の如き醜は醜なりと雖、此位の問題否是れ以上の問題は何れの

陸海兩相が解散に同意するか疑はしいからである、ソ一なると既成政黨の或るものは情勢政治の不當利得者と言ふべきか。

ふべきか。

現内閣も慥に行き詰つた、朴烈事件、

松島事件、首相の偽證事件と、次から次へと響響すべき不祥事の續發、内閣に罅の入つたことを如實に物語るもの。併しながら之を政争の具に供して他人の災厄を歡呼する在野兩黨の態度

第五十二回帝國議會は十二月二十四

日を以て招集され、愈政治季節に入る、

在朝在野の政黨は空意張の宣傳に餘念ないが解散不可避の時に及んでの宣傳、其の言ふ所何となく影が薄い、モ

一此處まで押詰つては解散より外に途がない、唯だ解散を實行するに至るまで内閣が持續するか否か々疑問、蓋し

内閣にも在つたこと、唯だ法廷に持出されなかつたに不過、首相たる人の偽證事件に至つては一笑に附して可、告訴の提起に依つて政治的道德を論ずるのは早計であり、廻りくどい立論である、此小問題の泥仕合に没頭し、正々堂々たる政策を携へて鎧袖一觸倒閣の態度に出ない在野兩黨の不甲斐なきを憫むと共に既成政黨の爲すに足らざるを憾む。

併しながら現内閣も亦手落がある、小問題を捉へられて反對黨に乗ぜられ其の度毎に小策を弄して物議を助勢するのは内閣に罅の入つた所、國民が愛想をつかす所以にして、吾人が首相の所謂民心不離吾の言に贅せざる所以。在野兩黨の提携乃至合同の成否は別

問題としても、對朴烈事件に意見の一致したる以上は其の理の存否を問はず、時の勢を以て解散することゝ爲るのが順序である、若し政府が兩相の爲に總辭職を敢行するに至つては、既成政黨に一年の壽命を與へ普選に依る新人の選出を遲疑せしむることゝ爲り、國民の不利益を醸すことゝ爲る、解散することは普選を早むることゝなり普選を確立した現内閣の責任であり我國政治の改革である、兩相を説得して一路解散へ邁進するのが國家の利益。

▽ △

醜狀の暴露に依つて、國民に愛想つかされた既成政黨が、對解散策に惱むとき、擡頭したのは新無産政黨組織の

計畫、慥に時機を得てゐる、普選に依つて生れた新有権者を既成政黨の毒手より奪ひ、勤勞階級者を政治的に團結せしめ、其の希望を政治に反映せしめ、特權階級の政黨に拮抗せむとするもの、其の趣旨固より賀する所、此くこそありたし、

併しながら其の包藏せむとする各階級者の總てが、自我を主張せず其の大的目的の傘下に團結するや頗る疑問、政黨の組織、固より學者の片手間に爲し遂げ得るものでない、實際生活の要求に適應したものたるを要す、今は未成品、批評の時でないが、計畫倒れに爲らぬやう、新味を政治の上に表はせたい、

▽ △

財政の緊縮を主義政綱とする憲政會の現内閣、歳出十七億三千萬圓の豫算を編成す、憲政會從來の聲明に賛成し眞に夫れを謳歌した者をして啞然たらしむ、若槻首相、國家の發達生長に伴ふ當然の結果なりと言ふ。

歳出不足額二億三千萬圓、例の公債政策に依る七千萬圓と前年度繰入金一億六千萬圓とに依つて支辨する勘定、歳出増加に關する政府の辯明は、公債償還制度を改正して減債基金を増加し、金鵝勳章年金と義務教育費國庫負擔額の増額、殖産興業の獎勵を圖る爲に蠶糸局の新設、曰く何々と、其の言ふところ何れも不可ならず、唯だ夫れを實現する時機が憲政會從來の聲明と矛盾するや否に在り。

減債基金四千五百萬圓の増加、歴代

内閣の企圖したるところ、之を爲さざりしは新規公債募集を差控へて剩餘金を新事業の財源に供するに在つた、今此事例に反して新規公債を募集するが、之と別途に舊債を償還することを主とせむとするに在る、假令片岡藏相の聲明と其の額に於て異なるも、その趣旨は剩餘金を以て減債するに在るを以て吾人必ずしも反對せず、併しながら之に依つて不利公債を減じ得ても、新公債を募集することに依つて其の効果は減少し、果して豫期の効果を收め得べきやは頗る疑はし、此方法に依る影響は一般より徴した租稅剩餘金を以て有資産階級を利せしむることにも爲る、

社會政策的見地を忘れたのは惜むべし。

他の新規事業は餘り論ずるの價值がない、殖産興業を理由とする豫算の増加も後から附けた理由に不過、殖産興業の要を力説して自動車道路助勢費を排したなぞ、其の所見の偏狹なる憐むに不堪。

歳出十四億餘萬圓の豫算を放漫政策と罵り、其の三割減を主張して豫算返上論を唱へた憲政會内閣の豫算とは思へない、若し時勢の進展が膨脹を餘義なからしむるとせば、會て返上論を唱へたのは誤であつた、緊縮政策を唱へたのも亦在野當時の空想であつた、社會に謝罪すべし。

新事業の内容を一瞥せば後年度財政を束縛するもの不尠、此方法に依つて

新事業の廣大を誇らむとす、人氣取豫算、解散を見越して選舉民の歡心を買はむとすと評せらるゝも亦辯解の辭なかるべし、藏相の健在を疑ひ憲政會の謝罪を望む。

▽ △

内務省豫算、要求通り全部通過す、

大手町の役人ここ萬歳の態、併しながら夫れは外觀のみ、濱口内相其の地位を忘れたのでもあるまい、藏相の積りで省内各局の要求を査定したに因る、

誠意を以てする豫算の要求は此くあるべきである、省内に於ける顔立てや手柄顔に豫算を要求すべきでない、各省大臣は國務大臣としての見地に於て豫算を審議せねばならぬ、夫れに舊慣は

各省大臣として審議してゐる、此幣風を矯めむとするのが濱口内相の眞意、吾人双手を舉げて之に賛成す、併しながら各省が誠意ないのでに内相だけが誠意ある豫算を要求することは、各省に

其の多くを與ふることゝ爲る、部下の役人憤慨するのも道理、見よ河川港灣の改修等其の名あつて、政府の負擔支出は後年に屬してゐることを、斯くして之を新事業と言ひ、吾黨の積極的政策の轉換と誇張す、國民欺瞞さるゝ勿れ。

道路改良費豫算、例に依つて三百五十萬圓を維持す、帝國の道路改良費としては言ふに不足、産業立國を説く内閣にして之を増加するの勇氣と誠意なく、官廳官吏の増加に之れ力む、經常

費的經費の増加は此趨勢を明に示してゐる、噫、官僚亡國と評すべきか。

▽ △

東京市長の交迭。蓋し當然のこと、病軀の故を以て固辭するものを強要し其の地位に就かした結果である、市民の爲めの市長に非ずして、革新會の爲の市長であつた、壯者を凌ぐ人にして尙其の任を盡す能はざる東京市長に、病者を以て充てむとすることが間違。

市會の選舉に依る市長、何人を選舉するも市會の自由、併しながら市民を代表する市會とすれば、市民の爲の市長でなければならぬ、市民の爲の市長には爵位や官歴ある人を要求してゐる

のではない、有能な實務家たることを要件とし、市會議員の操縱機關たる市長を欲しない。

西久保氏當選し之を快諾して市長となつた、市會の多數黨革新會の爲に、合法的に選舉せられた市長である、市長の職務、固より市會を離れて執行することは出来ない、市會多數派に擁せられた市長、コ、が西久保氏の頼む所であると共に、又氏の陥り易い穴、市會の多數を背景に職務を執行せば何事も成る、併しながら何事も成る所に多數黨革新會の專横を容れなければならぬ拘束がある、革新會が其の意の儘に行動する傀儡市長を選擇するに苦心したのも、そこに意味がある、併しながら如何に多數を擁しても、反公正不善

の市政は、吾人斷じて之を排す、此見地に於て此後の市政を監視せむ。

▽ △

東京府。市部収入に屬する自動車稅

五十四萬圓を東京市に下付すること、

なつた、吾人之を主張すること茲に數

年、東京府自醒の遅かりしを恨むと雖も、之を爲さるに勝ること數等之に

依つて東京市は一年一萬五千四百三十坪の道路の鋪裝工事が出来る譯、更に

受益者負擔金を徵收することに依つて、一年三萬坪を鋪裝することが出来る、幅員六間以上のも三十六萬坪、末

鋪裝部分十五萬七千坪と勘定しても、五年間に主要街路の鋪裝が完成する計算と爲る。

政商連、之を動機に市附加稅低額の運動を開始すと、醜狀語るに不堪、府の下付處分には道路改良費財源充當の條件を附するが當然、市は下付に依つて現在道路費の一般負擔額を輕減してはならぬ、市附加稅の低額斷じて之を許さず。

× × × ×

算と爲る。

× × × ×